

1991年11月10日(日)～11月28日(木)

《秋期特別展》 『切手のなかの博物誌』

会期：11月10日(日)～11月29日(金)

場所：博物館特別展示室

小さな切手のなかにある「物の世界」をのぞいてみませんか？

切手の中には、数多くの博物館資料が図案として登場しています。今回開催する特別展では、切手の図案になった浮世絵・動植物・昆虫さらには、人形芝居等に使われた博物館資料を切手とともにご紹介します。また、切手の原画・図案についても昆虫シリーズ切手の原画や普通切手の原図を中心に20枚程展示する予定です。その他にも、物を中心としたテーマコレクション切手も展示したいと考えています。



秋期特別展

会期：11/10～29

『切手のなかの博物誌』

今回の特別展は、切手のなかの図案をとおして博物館資料に対する理解を深めてもらうことを目的に企画されたものです。

浮世絵・高山植物・昆虫・民俗芸能・野鳥・魚介類さらに文化財等々、博物館資料が切手の図案になっている例は、たくさんあります。そうした例を今回の展示では、切手と対比させながら、見て頂こうと思います。

また、切手は、その多くが、物を緻密に精巧に描いた原画をもとに印刷したものです。したがって、今回の展示では、記念切手、シリーズ切手の原画を40年代・50年代というように

年代を追って19点展示します。そこから切手印刷技術の変化を読みとることができるでしょう。

さらに、物を中心としたテーマコレクションでは、世界の自転車切手・世界の昆虫切手・外国が発行する日本の浮世絵切手を中心に、戦時下、日本が占領した国々で発行したいわば切手そのものが歴史を語る博物館資料となってしまう切手も数多く展示します。小さな切手のなかにある「物の世界」や「歴史」をのぞく機会にしていだければと思います。

日本の国蝶であるオオムラサキは、75円切手の図案にも使われていました。

しかし、雑木林が少なくなるとともに姿を消し、今では、なかなか姿を見ることができません。平塚では、昨年実施した「身近な生き物調査」の時に久しぶりに観察されました。

特別展では、切手とオオムラサキの実物標本を展示します。



「オオムラサキ」撮影：貞松 嘉子氏（90.7.5）